

# テーマを中心とした初級日本語コースの実践報告

## Developing a Theme-Based Course for Elementary Japanese: From Theory to Practice

高田靖子 (Yasuko Takata Rallings)  
Wake Forest University  
takatay@wfu.edu

### 1. はじめに

本稿は、過去数年間試行錯誤を繰り返した結果完成した初級コースの報告である。初級コースを担当するのは初めてではなかったが、それまでに教えてきたコースの内容と外国語教育の研究で主張されていることとの間のギャップをどうやって埋めることができるだろうかという疑問を持ち始めたのをきっかけに、4年程前からコースの改善に取り掛かった。本稿では、実際の授業活動の例やプロジェクトの説明を含めたコース内容を報告したい。

### 2. コース改善の背景

コースを改善するにあたって注意した点は、如何に外国語教育の研究結果をコース内容に生かしていくかということであった。以下、参考にした研究をまとめ、効果的な授業活動について考察したい。

#### 2.1. インターアクションの重要性

近年の外国語教育論では、外国語習得におけるインターアクションの重要性が強調されている。Brown (1994) は、言語学習の最初の時点からインターアクティブな授業を行うべきだと主張している。Gass (1997) や Long (1996) の研究によると、学習者の間で意味のネゴシエーションが起こるようなインターアクションが習得を促すことが分かっている。コミュニケーションの際に、相手の言っている意味が分からなかったり、伝えたい意味がうまく表現できない時に、学習者の注目が言葉の使い方に向けられることが、習得につながっていくと論じられている。また、インターアクションの中で学習者がクリエイティブに表現できるような授業活動を行うことも大切であると言われている (Brown, 1994, Omaggio Hadley, 2001)。Omaggio Hadley (2001) は、学習者が自分の創造性を使って自分なりの表現の仕方を見つけたり、必要な時に言い直しをしたりするように指導するべきだと述べている。更に、学習者のインターアクションを促す際に、authentic input を出来る限り利用することも必要である (Omaggio Hadley, 2001, Tomlinson, 1998)。

#### 2.2. 外国語教育論を踏まえた授業活動の考察

以上を考慮すると、次のような授業活動を行う必要性が考えられる。まず、情報にギャップがあり、意味が分からなければできないタスクを行うべきである。よく使われるインフォメーション・ギャップやインタビューなどがその例であるが、情報のギャップがあると、お互いの言っていることの意味が分からなければタスクが達成できないことから、意味を伝える目的ができ、意味のネゴシエーションが起こる可能性が高まってくる。次に、学習目的の単語や文法を使わなければできないタスクを行う必要がある。この場合、コミュニケーションに問題が出てきた時に、学習者の注目が目的の単語または文法に向く可能性が強まり、効果的な練習になると言える。また、モデル会話の通りではなく、自分の言葉でクリエイティブに表現しながら達成するタスク、そして、生教材を取り入れたタスクを行うことも必要である。

これらを踏まえ、また、文化知識を教えることの重要性も考え合わせると、文化内容を入れることができるテーマ中心のコースを作成するのが効果的ではないかという結果に辿り着いた。どのようなコースを作成してきたか、以下実践報告をしたい。

### 3. 初級日本語コースの実践報告

#### 3.1. コースの作成のステップ

利用する教科書を決める際、広く使用されている既存の教科書三冊を検討したが、結局それまで使っていた McGraw Hill から出版されている “Yookoso! An Introduction to Contemporary Japanese” を続けて使っていくことに決めた。理由は、この教科書はすでにテーマを中心に構成されており、文化内容と結び付けやすいテーマが多いという点である。教科書のテーマは、クラスメート、私の町、日常生活、天気と気候、趣味と余暇、食べ物、買い物、の七つで、一学期目の Japanese 101 で前半三章を、二学期目の Japanese 102 で後半四章を使って教えるように分けている。

コース作成にあたって、まず各テーマごとに、テーマに関連して学習者に何ができるようになってほしいか、会話のサブトピックには何があるか、の2点を考えて目的を設定した。例えば、第二章「私の町」の場合、「日本とアメリカの通学状況について比べる」、「自分の住んでいる町について描写し、日本の町と比べる」、「自分のすまいについて描写し、日本の大学生のすまいと比べる」、のような目的を決めた。目的設定をした後、各目的に必要な文法と単語の選択をした。「自分の住んでいる町について描写する」という目的であれば、町に何があるか話す時に、形容詞の名詞修飾や存在文（例：町にきれいな公園があります。）が、使える。ただ、目的と文法を関連させる際に、次頁の表1に示してあるように、教科書にある文法の順番を大幅に変更しなければならないこともあった。表1の文法事項の左側にある番号は、教科書に出てくる順番である。

目的	並び替えた文法事項
趣味・余暇の活動について話す。	26. こと・の 24. 何か・何も・何でも ～たり～たりする（「ようこそ2」） 39. ながら
いろいろな活動のレベルについて話す （何ができるか・能力）	25. 上手・下手・得意・苦手 27. （量）も 28. ことができる・可能形

表1：第五章「趣味と余暇」目的と文法事項の例

最後に、各テーマの目的を設定し、関連する単語と文法を選択した後、それらを表にしたマスタープランを作成した（参考資料1）。これは、学期が始まってから日々のレッスンプランを作る際、章全体、そして一学期全体の目的を見失わずに指導を続けていくために、かけがえのないものとなった。

### 3.2. 授業活動の例

以下、具体的な授業活動を三つ報告したい。

#### 3.2.1. 日本の町（第二章「私の町」）

これは、形容詞の名詞修飾（大きい町、きれいな所、など）、場所の名前（本屋、映画館、など）、存在文（～があります）を使って自分達の出身の町の様子について描写をする練習をした後、日本にどんな町があるのか学習するために行った活動である。学習目的の項目は、交通機関の単語、形容詞の名詞修飾、存在文、形容詞の丁寧形（とても大きいです、あまりきれいじゃありません、など）と比較文（～は～より、～と同じぐらい）である。

まず、20人のクラスを5つの四人グループに分け、各グループに、東京、京都、長崎、福岡、札幌の中から一つの町に関する資料を渡した。資料は、Googleの地図（図1）と旅行会社からもらってきたパンフレットで、学生達は一緒に資料を見ながらプリント（表2）の指定された欄に答を書き込む作業を行った。1学期目の学生のレベルでは資料にある日本語を読むことは不可能な場合が多いが、地図の利点は、記号を見れば公園や学校、ホテル、コンビニなどを見つけることができることである。また、旅行のパンフレットも写真が豊富なので、必要な情報を探し出すのは可能であった。

最初のグループ作業が終わった後、違う町の情報を持っている学生5人が一グループとなり、情報交換を行った。この作業が終わった時点で、学生全員が5つの

町の情報を全部持っていることになる。その後、最初のグループに戻り、どの町に行きたいか話し合って決めさせた。



図 1 : Google を使って検索した地図の例 (新宿駅周辺)

	とうきょう	きょうと	ながさき	ふくおか	さっぽろ
Close to Osaka?					
How many hours by train from Osaka? Convenient?					
Is the town big?					
Population					
Is the town beautiful?					
Is it a good town?					
What do they have there?					

表 2 : 「日本の町」のグループ作業用の表

このタスクを作る際に注意したのは、1学期目の段階でも使えるような生教材を利用することと、情報のギャップを利用して話し合いを活発にさせることで、結果的に Jigsaw と Decision making の形式となった。ただ、まだ限られた日本語を使っての作業のため、どうしても英語を使いたがる学生もいたので、今まで学習した日本語を使ってできる作業であることを強調し、極力英語の使用を避ける努力をするよう注意することが必要であった。

### 3.2.2. 日本旅行（第四章「天気と気候」）

これは2学期目に入り、第四章の最後の方で行った授業活動で、章の中で学習した天気に関する単語や理由の言い方、形容詞や動詞のて形、予想の仕方（でしょう、かもしれません）の外に、1学期目で学習した誘い方（ましょう、ませんか）などが使えるものである。3.2.1. で取り上げた「日本の町」の活動と同じように、情報のギャップを利用して Jigsaw と Decision making の形式で、3人のグループで行った。詳しい指示は、表3に提示してある。

1. You are traveling in Japan with two friends. You are staying at an inn outside of Tokyo tonight and planning where to go tomorrow. Your plan depends on tomorrow's weather. Out of six cities you're interested in visiting, you have gathered weather information of two cities. Ask your friends, who have gathered weather information of other cities. Considering the weather information, discuss with your friends and decide where you should go tomorrow.			
町	天気	気おん	風
にいがた (おいしいおさけ)	cloudy, p.m. snow (30%)	1C	strong
ちば (東京ディズニー)	fine, occasionally cloudy rain (20%)	6C	weak
よこはま			
なごや			
はこね			
ながの			
2. Once you decide where to go, look at the information of the town and discuss what you might do there. You don't have to read everything on the information sheet – Look at the pictures! You can also ask me questions. Report to class what you might do there.			

表3：「日本旅行」の指示とグループ作業用の表

最初のグループ作業でお互いの情報を交換し、翌日一緒にどの町を観光するか決めた後、各グループに行きたい町の情報を渡し、2番の作業に移ってもらった。渡した資料は事前に準備していたもので、インターネットで検索して得た町の名所や郷土料理の資料のコピーである。例えば、箱根の場合、温泉旅館やそば屋のホームページのコピーなどを含めた。

この授業活動も、生教材を使うことと情報のギャップを取り入れることを念頭に作成した。インターネットのページを渡した時学生の動揺した様子が見られたが、豊富な写真からかなりの情報が得られたこと、カタカナ語を読むのがおもしろいこと、学習済みの漢字を見つけたこと、などの理由で、学生がグループ作業に熱心に取り組んでくれたのは、うれしい限りであった。

### 3.2.3. 「会社を作ろう！」（第五章「趣味と余暇」）

上に挙げた二つの例は小グループでの作業だったが、三つ目の例は小グループとクラス全体の作業を混ぜた授業活動である。インタビューと Decision making の形式で、趣味と余暇の活動に関する単語、「こと・の」（しゅみは～ことです、～するのが好きです、など）、「～たり～たりします」の文型が学習目的であった。

まず、3～4人のグループを作らせ、次の指示を与えた。

You, as a group, want to start a business targeting college students.

1. Gather information by asking other students about their hobbies and leisure activities.
2. Then, go back to your group to share the survey results and discuss what kind of business would be profitable.

インタビューを行う前にグループでインタビューの質問を考えてから、できるだけ多くの学生にインタビューをさせた。その後元のグループに戻り、インタビューの結果を報告しながら何の会社を作るといいかを話し合っただけで終わらないように、発表の中にどのような情報を入れるか指示を与える必要がある。

大学生の一番多いしゅみは、\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_です。  
そして、大学生は余暇によく\_\_\_\_\_たり、\_\_\_\_\_たり、  
\_\_\_\_\_たりするから、私たちは\_\_\_\_\_の会社をつくりたいです。

この授業活動も、先の二つの例と同じように **Decision making** を取り入れたことで、インタビューで得た情報を使って何かをするという言語以外の目的が出来、意味のあるインターアクションが出来たのではないかと思う。また、話し合いの際にモデル会話なしで学生達が自由に発言する機会を与えることができた。

### 3.3. プロジェクト

毎日のワークブックなどからの宿題の他に、テーマの内容にそった課題を与えた。スキット、作文、文通プロジェクト、インタビューと発表、が主なものであったが、ここでは文通とインタビューの二つの課題について説明したい。

#### 3.3.1. 日本の大学生との文通プロジェクト

1学期目に日本の大学生と文通をさせるというプロジェクトは1998年から行っている。例年、学生同士で自由なメール交換をさせていたが、授業で学ぶテーマの内容に合わせて文化面の学習を促進するために、2007年秋の授業では、それまでと少し違った方法でプロジェクトを行った。

文通の相手は2002年から協力をしてきている獨協大学で、学期が始まる前も学期中も担当の教師と頻繁に連絡を取り合いながら取り組んだ。文通の手順は、まずお互いの学期が始まった時点で、独協の担当教師のクラスの学生一人とこちらの学生一人をペアにした。独協のクラスの方が人数が多かったため、日本人二人にこちらの学生一人という三人グループになった場合もあった。文通相手を決めた後、こちらの学生がひらがなと自己紹介の仕方の学習を終えた9月中旬に、自己紹介の手紙を手書きで書かせ、それをスキャンして、独協大学の担当教師にPDFファイルとしてイーメールで送った。独協の学生からこちらの文通相手の学生に日本語と英語両方でイーメールの返事が来た後、自由にメール交換をさせ始めた。ここまでは以前と同じ方法であった。今回違ったのは、自由なメール交換に加え、授業のテーマに合わせて、期限を与えて簡単な調査をメール交換を通してさせたことである。調査の内容は次の三つである。

- (1) 住んでいる町の大きさは。町にどんな場所があるか。
- (2) 寮に住んでいるか。アパートか。部屋に何があるか。通学方法は。
- (3) 典型的な大学での一日の様子はどうか。

質問(1)と(2)は、第二章「私の町」、質問(3)は、第三章「日常生活」で学ぶ内容に関係している。調査を全部終えた後、学期末にレポートを提出させ、調査結果から学んだ文化面の内容と、プロジェクトの感想を書いてもらった(表4)。

全体的に好意的な感想が多かったが、中には文通がうまくいかなかった学生もいたようである。プロジェクトの性質上、文通相手がお互いに期限を守ろうとしないと、文通が止まってしまう可能性が高くなってしまう。また、1学期目の時点

1. Complete the following chart in English based on the responses you received from your pen pal.		
	Write down what you learned about your pen pal	Compare your pen pal and yourself: What are the similarities and differences?
<u>Home town</u> : How big is it? What do they have in the town?		
<u>Residence</u> : Does your pen pal live in a dorm or an apartment? How does s/he go to school? What does s/he have in the room?		
<u>Daily activities</u> : What is a typical day at school like for your pen pal?		
2. Please attach a typed, brief reflection on this assignment. How did you like to exchange email messages with a student in Japan? Did it help you to learn about Japanese culture and language? Why? Why not?		

表4：文通プロジェクトのレポート

で日本人と日本語でメールを交換するのはかなりつらい、という意見もあった。独協の学生にはできるだけ簡単な日本語で書くようお願いしてあったが、どんな日本語が学習者にとって分かりやすいのかは、日本語教師でない限り判断しにくいようである。日本語の能力が限られているこちらの学生にとって難しいプロジェクトではあったが、同じぐらいの年齢の日本人学生に知り合えたこと、日本人の若者が使う日本語に少しでも接することができたこと、教科書からだけではなく、人を通して実際の日本での生活について知ることができたこと、勉強した単語を文通相手が使った時に意味が分かってうれしかったこと、など利点も多かったと思う。

### 3.3.2. インタビューと発表：「和食」

このプロジェクトは、ペアまたは3人のグループで日本人一人に好きな和食についてインタビューし、その結果を発表するというものである。参考資料2は学生に渡したプリントであるが、学生達が期限までに余裕をもって準備をするように、細かな指示を与えた。食べ物に対する興味が皆高いこともあり、学生達は忠実に指示に従ってくれ、緊張しながら挑んだ初めての日本人とのインタビューから必要な情報を得ることができたようであった。プリントを用意させ（参考資料3）、

授業で各グループ3～5分の発表をしてもらった。日本人パートナーから聞いたレシピを元に料理をし、発表の日に自分達で作った料理を持ってきてくれたグループもあった。

2学期目の後半に教えた第六章「食べ物」の内容と結びつけた課題を出すことによって、インタビュー中も発表の時も、学習目的の食べ物に関する単語や文型を使わせることができたようである。和食に関する情報を得るという目的を達成するために、学習目的の言語項目を使いながら作業をした、という点と、学生達が興味のある日本文化の一面について学ぶ機会を与えた、という点で、意義のあるプロジェクトになったのではないかと思う。

#### 4. 終わりに

教科書のテーマを中心に文化面の学習を濃くし、テーマに合わせたプロジェクトを取り入れたり、外国語教育論を生かした授業活動を増やしたりしたことで、満足のいく点が多かった。2. 2で述べた効果的な授業活動にはどのようなものがあったかここで繰り返すと、情報にギャップがあり意味が分からなければできないタスク、学習目的の単語や文法を使わなければできないタスク、自分の言葉でクリエイティブに表現しながら達成するタスク、生教材を取り入れたタスクの四つがあった。テーマ中心のコースを作成して文化面の学習を強調することにより、この四つのタイプのタスクを増やすことが可能になったように思う。言語外の目的、例えば、何か特定の文化面を学ぶことや、得た情報を使って何かを決定するなどの行動をおこす、などの目的を設定すれば、必要な情報を得る際に意味の理解が不可欠になる。言語の目的に関しては、新出の文法一つに集中した文法練習だけではなく、文化情報を利用して複数の文法や単語を取り入れたタスクを行うことができたと思う。そのようなタスクには、モデル会話などは提示されていないため、学習者が自分なりに表現の仕方を考える必要がでてくる。また、テーマと関係のある生教材を使うことで、学習者の興味が高まったように思う。

これから更に改善していくべき点ももちろんある。一番大きな問題は、テーマによって生教材を使いにくいものがあることである。「私の町」「天気と気候」「食べ物」「買い物」などのテーマに関連した生教材は多かったが、「日常生活」と「趣味と余暇」のテーマは、生教材が使いにくかった。今後この二つのテーマについて教える時に、どのような生教材を使っていけるかが課題である。また、今回使った生教材は、新聞広告やパンフレットなど印刷物がほとんどであったので、これからビデオなどオーディオ・ビジュアル関係の生教材を探していきたいと思っている。

## 参考文献

Brown, D. (1994). *Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy*. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.

Gass, S. (1997). *Input, Interaction, and the Second Language Learner*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

Long, M. (1996). The role of the linguistic environment in second language acquisition. In W. Ritchie and T. Bhatia (Eds.), *Handbook of Second Language Acquisition* (pp. 413-468). San Diego: Academic Press.

Omaggio Hadley, A. (2001). *Teaching Language in Context* (3<sup>rd</sup> ed.). Boston, MA: Heinle & Heinle.

Tohsaku, Y. (2006). *Yookoso! An Invitation to Contemporary Japanese* (3<sup>rd</sup> ed.). McGraw Hill.

Tomlinson, B. (1998). Introduction. In B. Tomlinson (Ed.), *Materials Development in Language Teaching* (pp. 1-24). Cambridge, UK: Cambridge University Press.

参考資料 1 : 章のマスタープランの例 (第二章)

Chapter 2. My Town

Topics		Grammar / Vocabulary
(continuing from Chapter 1) where we live, commuting (Japan/US comparison)	通勤のビデオで文化面 : 交通機関、通勤・通学 時間の比較	Time : 分、時間、～時間半 Transportation : バス、タクシー、地下鉄、車、電車、自転車、徒歩 Adj.: 近い、遠い、便利、不便 家 (いえ、うち)
Describing our town (Japan/US)	出身の町は大きい町か、小さい町か。町に何か あるか。写真で日本とアメリカの町の比較も。	町、大きい、小さい、きれい、人口, large numbers up to 百万、どんな Places in town: 本屋、花屋、映画館、喫茶店、図書館、公園、銀行、病 院、郵便局、デパート、スーパー、バス停、学校、駅 (駐車場) (1) Adjective + Noun (2) ～に～があります。
	出身の町はどんな所か。(「出会い」を使っ て、東京から遠いか、などできる)	Adjectives: : どんな所、とても、まあまあ、ちょっと、少し、あまり、全 然、(遠い、近い、大きい、小さい、きれい) (1) Adjective conjugation (2) Comparison～より・～と同じぐらい
	町のどこに何かがあるか。どんな建物か。(日本 の町の通りの地図?)	Prepositions: むかい、前、後ろ、となり、右、左、間、そば Adj.: 高い、低い、新しい、古い、きたない (きれい、大きい、小さい) Counters: いぬ、ねこ、匹、人、台 (1) ～は～にあります。 (2) ～は～に (数) あります・います。
Describing places we live (Japan/US comparison)	どんな所か。友達はどうな人か。(日本とアメ リカの家・アパートの比較)	Adj 静か、うるさい、にぎやか、広い、狭い、やさしい、しんせつ、まじ め、元気 どんな人
	何かがあるか。	Nouns: 部屋、雑誌 counters 枚、冊、本、個、つ Adj: 多い・少ない、長い、短い
	どこにあるか。	prepositions: 中、外、上、下、横
	(部屋にあるものに関して) 好き・きれい	一番好きな～は何か。音楽、テレビ番組

**インタビュー・グループレポート「和食」**

Each small group will interview a Japanese person **in Japanese** to obtain the following information and give a presentation in class.

- (1) Interviewee's favorite Japanese dish**
- (2) Ingredients and seasonings used in the dish**
- (3) How to make it**

**Step 1: Form a group by Wednesday April 2**

Let me know who is in your group via email by Wednesday, April 2. We will need five groups of three and one pair of students. I will then email you the name of your interviewee and email address.

**Step 2: Contact your interviewee by Monday, April 7.**

Email the interviewee (CC to me) in Japanese to introduce yourself and explain why you need to see him/her. Ask the best date/time for him/her to meet.

**Step 3: Complete the interview by Friday, April 18**

Spend at least 10 minutes so that you can gather enough information for your report.

- (1) Initial greetings: Thank your interviewee for helping you.
- (2) Interview
- (3) Thank again when you finish.

Useful expressions:

•When you don't understand what the interviewee says:

すみません、もう一度言ってください。

•When you finish the interview:

今日はおいそがしいところ、どうもありがとうございました。

**Step 4: Prepare a presentation**

Each group will make a handout including the information below, and practice the presentation.

- (1) Name of the dish
- (2) Picture of the dish: Search using Yahoo Japan (<http://www.yahoo.co.jp>)
- (3) List of ingredients
- (4) Steps to make it

**Step 5: Presentation on Thursday, April 24**

Each group will have about three-five minutes. Make sure everyone in the group speaks during the presentation.

❖Evaluation criteria (20 points):

Content and organization, Fluency, Accuracy, Pronunciation, Overall impression

❖Vocabulary lists you can refer to in the textbook:

**Food items pp. 362-363, 372 / Seasonings and flavors p. 382 / Cooking terms p. 397**

## おこのみやき



どうしておこのみやきが好きですか。  
作ることはとてもはやくて、かんたんなのです。ざい料は安いからです。  
下川さんの子どもは、おこのみやきがおいしいと言いました。

**材料：**  
ぶた肉  
水  
たまご  
キャベツ  
いか  
えび  
たまねぎ  
こむぎこ flour

**調味料：**  
あまいマヨネーズ

**どうやって作りますか：**

三十分ぐらいです。

1. たまねぎやたまごやキャベツを切ります。
2. それから、ぶた肉やえびやいかを切ります。
3. そして、なべに全部料理をいれて、料理をまぜます。
4. ひらなべに全部料理をいれます。それから、十分ぐらいやきます。
5. そのあと、おこのみやきをひっくり返します。十分ぐらいやきます。
6. 食べる時、おさらとナイフとはしとあまいマヨネーズがいります。

おこのみやきは、おいしそうですよ。味は、あまいと思います。

